



文・圖——笠原政治（日本橫濱國立大學名譽教授）  
譯者——胡家齊  
文責・圖——笠原政治（日本橫濱國立大學名譽教授）  
訳者——胡家齊

持續する學術交流 台日原住民族研究論壇の13年  
Academic Exchange Has Been Continuing for 13 Years:  
The Taiwan-Japan Forum on Aboriginal Studies

# 學術交流持續不斷 台日原住民族研究論壇的13年

**台日** 原住民族研究論壇（フォーラム）は、国立政治大学の原住民族研究中心（ALCD）が主催し、そこに台湾と日本の研究者が参加するという学术交流の場として設けられました。第1回の会議が実施されたのは2008年8月です。それ以来、現在に至るまで毎年1回ずつ同様の会議を開催するのが定例化するようになりました。台湾原住民族の研究促進を目的とした台日間の協力はこれまでもさまざまな形で進められてきましたが、この論壇のように息の長い持続的な学术交流が実現したのは初めてのことでしょう。

**台日** 原住民研究論壇，由國立政治大學的原住民研究中心（ALCD）主辦，是為台灣及日本的研究人員參與學術交流而成立的。第一次的會議始於2008年8月。自此以來，至今每年舉辦一次論壇，已然成為慣例了。以促進台灣原住民族的研究為目的，在台日之間的相互協助之下，至今以各種各樣的形態不斷地演進中，能像論壇這般長時間、持續不斷地實現學術的交流，真的是首見之舉。

## 論壇の軌跡

会場は政大の構内とするほかに、台北から離れて台東、屏東、花蓮、宜蘭の各地に移した年もあります。中でも、日本の人類学者として名高い馬淵東一の原住民族研究をテーマにした台東市の第2回（2009年）、タロコ族の抗日戦争史をテーマにした花蓮県秀林郷の第8回（2015年）のような規模の大きい会議には今でも強い印象が残っていますが、その一方、政大で何度か行われた親密な雰囲気のある会議に好感を持ったと語る日本からの参加者も少なくありません。年によって会議の運営に変化を付けようとする主催者の演出が効を奏しているのです。

以著名的日本人類學家馬淵東一的原住民研究為主題的第二次論壇是在台東市（2009年）、以太魯閣族的抗日戰爭主題在花蓮縣秀林鄉舉行的第八次大規模會議，至今仍令人印象深刻。至今仍令人印象深刻的。



各回の会議では原住民族に関する最新の研究成果が漢語（中国語）または日



第2回日台原住民族研究フォーラム（台東，2009年）。  
第2届台日原住民族研究論壇（台東，2009年）。

## 論壇軌跡

論壇場地，除了在政大校園之外，也有遠離台北，移師台東、屏東、花蓮、宜蘭各地的場次。其中，以著名的日本人類學家馬淵東一的原住民研究為主題的第二次論壇是在台東市（2009年）、以太魯閣族的抗日戰爭主題在花蓮縣秀林鄉舉行的第八次大規模會議，至今仍令人印象深刻；另一方面，也有很多來自日本的參與者表示在政大校園內舉行的論壇會議，輕鬆親密的氣氛也令人欣喜。試圖讓每年會議的開展，有更多元的變化，這些都讓我們看到了主辦單位的用心及努力。



## 凡例

- 一、收錄原教界100期所有作者，共1,304人。
- 二、漢字名依筆畫順序排列，羅馬字依字母序排列，漢字在前，羅馬字在後。
- 三、羅馬字名字使用姓氏者，依姓氏排列，不使用姓氏者，依名字第一個字母排序。
- 四、作者，有些照片畫素太低，不利印刷，有些無照片，一律以該作者第一次發表之該當期封面代替。

### 2劃

丁方又



丁文卿 第24期  
丁立偉 Oliver Lardinois 第8,66期  
二宮一朗 第18期



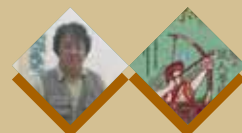
力宏勳 第23,55,58,60期  
又吉盛清 第57期

### 3劃

上下于凡大小山工



上官良治 第83期  
下地賀代子 第56期



下村作次郎 第36期  
于剛斐 第72期



龍男·以撒克·凡亞恩 Lungnan Isak Fangas 第33期  
大仁科技大學原住民發展中心 第34期  
小川正人 第18期  
小野有五 第18期



山本芳美 第8,10期  
山西弘朗 第30期  
山崎幸治 第76,90期  
工業技術研究院 第55期

### 4劃

中丹孔尤巴文斗方日比王



中井貴規 第79期  
丹青 Tumi Tanakyuwan 第85期  
丹菊逸治 第77,78,86期  
孔令堅 第70期  
孔岳中 第2,7,12,37,54期  
尤天鳴 Kapi 第26,40,64,66,70,83期  
尤秀珠 Namoh Arang 第4,40期



巴奈·母路 Panay Mulu 第75期  
巴奈·葛六 Panay·Keliv 第83期  
巴清雄 Rugnudru Pacekele 第58期  
巴瑞齡 Pajuiting 第49期  
文高一 第59期  
斗睿·夏德 Torih Syat 第48期  
方双喜 第35,36期





第5回日台原住民族研究フォーラム（屏東，2012年）。  
第5屆台日原住民族研究論壇（屏東，2012年）。

本語のどちらかで発表され、研究発表とそれに対する質疑応答はその場ですべて双方向に通訳をされます。学術言語の違いによる壁をできるだけ低くするための配慮です。実際、巧みな通訳がこの論壇を支える大きな力になっているのは間違いありません。

開催された論壇についての丁寧な報告記事が、本誌『原教界』には第23期（2008年10月号）から、ま

每次會議當中，關於原住民的最新研究成果，用的是中文或日文其中一種語言進行發表，相對於研究發表，提問與回答時也同時有雙向的口譯。這是儘可能減低學術語言差異藩籬的考量。實際上，巧妙的口譯，毫無疑問的也是支持這個論壇的很大助力。

關於每次舉辦的論壇細節記錄，從《原教界》這本雜誌，第23期（2008年10月號）、日本的年刊雜誌《台湾原住民研究》第13期（2009年）開始，就各別有追蹤刊載。



第7回論壇で講演をしたPaul Barclay氏（台北，2014年）。  
第7屆論壇的講者Paul Barclay先生（台北，2014年）。

た日本では年刊の雑誌『台湾原住民研究』に第13号（2009年）から、それぞれ回を追って掲載されてきました。それらの記載事項を見れば、これまで13年にわたって積み重ねられてきた学术交流の実績が個々のセッション名や発表者、発表題目などを含めて確認できます。

關於每次舉辦的論壇細節記錄，從《原教界》這本雜誌，第23期（2008年10月號）、日本的年刊雜誌《台湾原住民研究》第13期（2009年）開始，就各別有追蹤刊載。看了這些過去的記錄事項，就能確認交流至今13年以來，累積出學術交流的實際成果，包含每個場次的名稱、發表者、發表主題等細節都能由此得到確認。



5劃  
加包北卡古台左布平正母及瓦田白石







### 日本からの参加者

論壇に日本から参加するのは主として日本順益台湾原住民研究会の会員です。この研究団体は、台北の順益台湾原住民博物館から助成を受けて1994年に発足しました。会員は2020年現在で36名とあまり多くはないのですが、私を含めて日本で台湾原住民族に学術的関心を寄せる研究者は大半がここに所属しています。毎年、研究発表会の実施、雑誌『台湾原住民研究』の編集・発行（最新刊は第24号）などの活動を行っており、それらに加えて台湾で開催される台日原住民族研究論壇への参加を重要な活動の一つと見なしていることは言うまでもありません。

台日論壇（フォーラム）は私たち日本の研究者

第8回論壇の史跡見学参加者（花蓮、2015年）。  
第8回論壇参訪遺跡の参加者（花蓮、2015年）。



### 來自日本的與會者

參加論壇的日本與會者，主要是以日本順益台灣原住民研究會的會員為主。這個研究團體，是始於1994年在台北的順益台灣原住民博物館的贊助下成立的。截至2020年到現今，雖然成員並不多，僅只有36人，但在此研究團中，包括我在內，大部分都是對台灣原住民有學術性關注的研究人員。每年施行的活動是舉辦研究發表會、編輯發行雜誌《台灣原住民研究》



第9回日台原住民族研究フォーラム（台北、2016年）。  
第9屆台日原住民族研究論壇（台北、2016年）。

にとっても大いに意義深い学術交流の機会です。その準備と運営に尽力してくださる国立政治大学原住民族研究中心の皆様、この誌面を拝借して感謝の意を表したいと思います。◆

（最新期刊は第24期）等、再加上前往參與在台灣舉辦的台日原住民族研究論壇，無庸置疑的，就是被視為最重要的活動之一。

台日論壇，對日本研究者的我們來說，是個深具意義的學術交流機會。今天藉由雜誌，向用盡全力經營、籌備的國立政治大學原住民族研究中心的各位，表達我的感謝之意。◆

### 笠原政治

KASAHARA Masaharu  
1948年，日本静岡県生まれ。東京都立大学大学院博士課程修了。横浜国立大学教授を経て、現在同大学名誉教授。研究領域は社会人類学、台湾原住民族研究、沖縄研究。



### 笠原政治

KASAHARA Masaharu  
日本静岡県人，1948年生。東京都立大學學院博士。曾任橫濱國立大學教授。研究領域為社會人類學、台灣原住民族研究及沖繩研究。現任橫濱國立大學名譽教授。

